日本言語政策学会（JALP）第24回研究大会　21世紀の言語普及地図

日　時　2022年6月18日(土)～19日(日)
会　場　京都大学 吉田南キャンパス
第１日　吉田南総合館北棟
受　付　吉田南総合館北棟１階 Bell Lounge
書籍展示＆交流スペース　Bell Lounge
大会本部　共北22演習室
（WiPセッションのみ、オンラインで実施します）
第２日　人間・環境学研究科棟 地下大講義室
受　付　地下大講義室前
書籍展示　地下大講義室前
参加費　会員・大学院生　1,000円
非会員　2,000円
学部生　無料
申　込　事前申込
https://jalp24.peatix.com/
（当日､会場でもお申込みいただけます）
共　催　京都大学西山教行研究室
（京都大学の院生は2日目無料でご参加いただけます）
※都合により発表プログラムは変更される場合があります。

第2日　6月19日（日）

会場　人間・環境学研究科棟 地下大講義室

12:30　受付開始

12:45　開会式

開会の辞・趣旨説明
山川和彦（日本言語政策学会会長・麗澤大学）

13:00～14:00　基調講演

朝鮮語をめぐる哲学的断想
小倉紀蔵（京都大学）

14:00～16:00 シンポジウム

21世紀の言語普及地図
○ロシア語話者はロシアの「同胞」なのか
：ウクライナ戦争を通して　渋谷謙次郎（早稲田大学）
○多言語教育を目指す台湾の言語政策
―言語の競合と共存の視点から―　林初梅（大阪大学）
○日本における多言語状況と日本語教育政策の課題
福永由佳　（国立国語研究所）
○「21世紀の言語普及地図」における中国語呼称について
―「漢」「華」「中」との結びつき―
藤井久美子（宮崎大学）司会兼
ディスカッサント　西山教行（京都大学）

16:00～17:00 総会

学会賞授賞式

書店特設ページ

明石書店 特設ページ
https://onl.tw/KJiXPmv

『社会言語学』刊行会
https://syakaigengo.wixsite.com/home/2021gengoseesakugakkai

ひつじ書房 特設ページ
https://www.hituzi.co.jp/books/hituzi_JALP2022.html

くろしお出版 特設ページ
https://www.9640.jp/exhibitor/jalp2022/

第１日　6月18日（土）

10:00 ～ 12:00　WiPセッション　(9:55 司会挨拶)

オンライン会場にジャンプする
Meeting ID: 853 4649 8235　Passcode: 063120

オンライン（共北25講義室より配信）

W-1[ポーランド語資料紹介]T・オルシャィンスキ『クレスィの辺境　スタニスワヴフ未だ滅びず』2016 年　貞包和寛（日本学術振興会特別研究員）

W-2インクルーシブミュージアムに向けて―龍谷ミュージアムを事例として
村田和代ゼミ　チームA（龍谷大学）

W-3ユニバーサルツーリズム実現に向けた視覚障害者向けマップ作成
―京都市を事例として　村田和代ゼミ　チームB（龍谷大学）

W-4観光とコミュニケーションに関わるコンピテンシー評価指標の開発過程
藤田玲子（成蹊大学）、綛田はるみ（横浜商科大学）

W-5スポーツの言葉と言語政策　清水泰生（同志社大学）

オンライン

W-6つなげる地域社会と外国人家族―保育の場におけるコミュニケーションのしかけづくりにむけて　つなげる保育園プロジェクトチーム（筑波大学）、井出里咲子（筑波大学）

W-7南アジアの言語と教育―階層・国家・グローバリゼーション
野沢恵美子（中央大学）、須永恵美子（東京大学）

W-8日本語教科書と国語教科書の内容比較から見た平和教育への一考察
大須賀茂（Seton Hall University）

W-9多文化共生のパッチワーク支援の現状について
東平福美（東京大学）

※ オンライン会場は、２つのブレイクアウトルームに分かれています。
メインルームに入室後、ご自身でご移動ください。

11:30 ～ 受付開始　Bell Lounge

12:00 ～ 13:00　ポスター発表　Bell Lounge

P-1外国語教師の養成で求められる「教育実習」の再考
「公認日本語教師」とフランスの事例の比較分析から
保坂敏子（日本大学）、杉田千里（国際交流基金）
谷部弘子（東京学芸大学）、島田めぐみ（日本大学）
本廣田鶴子（ヒューマンアカデミー）、増田朋子（神奈川大学）
藤光由子（国際交流基金）

P-2周産期精神医療研究は来日外国人支援策に示唆を与えるか：周移住期の言語環境構築モデルについての試論
サウクエン・ファン（神田外語大学）、村岡英裕（千葉大学）

P-3中央教育審議会における「言語能力」に関する考察
赤桐敦（京都大学）

P-4トランスランゲージングの概念の受け入れやすさ
蒲原順子（福岡大学）

11:40～12:40 学生・若手情報交換会

WiPセッションの感想、研究活動の近況などについて、自由にお話ください。場所は、1FのBell Lounge，2Fの共有スペースをお使いいただけます。

13:00～15:00　一般研究発表(12:55 司会挨拶)

共北25講義室　司会：ピアース ダニエル（四天王寺大学）

A-1Observations upon the present global influence of the Chinese language
Albert R. Zhou (Musashino University)

A-2Indonesian national language Bahasa Indonesia and the prestigious Javanese
Yoshimi Miyake (Akita University)
John Myhill (University of Haifa, Israel)

A-3インド北東部における公用語普及の問題
村上武則（東京外国語大学）

A-4独立期アフリカにおける「言語問題」の思想「アフリカの諸言語についての円卓会議」を中心に　駒場謙允（京都大学・大学院生）

共北26講義室　司会：下 絵津子（近畿大学）

B-1イタリアの言語教育における複言語主義の変遷－イタリア人生徒と移民生徒の教育政策のなかで―　西島順子（大分大学）

B-2The politics of naming in postcolonial Korea: The case of the Chosengo debate in the 1970s
Jinsuk Yang (Osaka Metropolitan University)

B-3サハリン韓人を取り巻く言語環境
渡邊香織（千葉大学・大学院生）

共北27講義室　齋藤 伸子（桜美林大学）

C-1留学生30万人計画で日本語教師の職は増えたのか　大学等機関における学習者・教師数の推移　牲川波都季（関西学院大学）

C-2 3.11、コロナ、東京2020、そして日本語教育　虚構性という側面からの一考察
萩原秀樹（インターカルト日本語学校）

C-3「Plain Language」のニーズ調査
―医療系大学の学生を対象に―
五十嵐小優粒（国際医療福祉大学）
斎藤隆枝（国際医療福祉大学）

共北28講義室　杉本 篤史（東京国際大学）

D-1多言語社会における母語教育の意義
大阪府の公立高校で行われる母語中国語の授業を例に　王一瓊（大阪大学）

D-2「日本語指導が必要な児童生徒」調査結果の新聞報道 何かを問題とみなすことでもたらされるもの
村上智里（大阪大学・大学院生）

D-3日本在住ウイグル人の複言語意識とアイデンティティー“民考漢”を中心に－
Abudurexiti　ABUDULETIFU
（モラロジー道徳教育財団）

15:15～16:45 パネル発表

パネル1　共北25講義室

S-1「日本語教師【養成】」における言語政策教育の意義
○趣旨説明　富谷玲子（神奈川大学）
○言語政策と日本語教育　平高史也（愛知大学）
○言語教育関係者にとっての言語権
杉本篤史（東京国際大学）
○言語政策としての日本語教育と教師養成
松岡洋子（岩手大学）
○「日本語教師【養成】」における言語政策の意義
富谷玲子（神奈川大学）

パネル2　共北26講義室

S-2観光の多様化と地域言語・方言
○趣旨説明　山川和彦（麗澤大学）
○観光資源としてのチェジュ語の普及活動
高民定（千葉大学）・高龍珍（KALS・済州漢拏大学）
○台湾観光にみられる言語的多様性―観光場面における先住民族語利用について―　藤井久美子（宮崎大学）
○関西と九州の観光地における方言使用の様相
長谷川由起子（九州産業大学）

パネル3　共北27講義室

S-3コロナ禍におけるSDGsと言語政策―地方自治体の多言語対応を事例として―
○趣旨説明　臼山利信（筑波大学）
○SDGsの可視化と地方自治体の多言語対応―茨城県の市町村を中心として―　臼山利信（筑波大学）
○地方自治体のコロナ情報の多言語対応
岡本能里子（東京国際大学）
○石川県能美市における外国人住民のためのSDGsの取り組み
本田　弘之（北陸先端科学技術大学院大学）
○「外国人市民との顔が見える関係づくり」を目指した多文化共生事業の取組　黒瀬啓介（総社市）

17:00～ ミニ・コンサート　Bell Lounge

背景：『National school board series : No. 4 : Asia』（京都大学附属図書館所蔵）を改変